

(仮称)新武蔵野クリーンセンター施設まちづくり検討委員会
委員長殿
委員各位殿

2008.12.8.

11月17日付前回「～いくつかの疑問・意見」を提出いたしましたが、更に意見を追加させていただきます。私たちが傍聴という形で参加し、意見を述べるのは、全市民的規模でのいっそうのごみ減量の推進をすすめながら、いい形で「よりよい施設をよりよい場所に」が、名実ともに市民参加ですすめられることを願っているからです。2回の意見書が今後の委員会に反映されるとともにご回答などよろしく願い申し上げます。

1. 私たちが、大切だと思うこと。

全市民的にクリーンセンター及び、ごみの減量を考えるこの機会を捉えて、委員会はごみのいっそうの減量化についての全市民的合意づくりを基本にすえていただきたいこと。

行政は、新たに重大な課題に取り組む覚悟で、委員会待ちにならずに、率先して先頭に立ち「ごみ減量」の道筋をつけていただきたいこと。

未来にわたる環境への配慮、経済的負担への配慮が広がり、ごみ減量・ごみ質改善についての100人の一歩、千人の10歩につながれば、そのことを背景に施設のあり方の具体的姿を明らかにすべきだと思います。それあって初めて用地をどこかにお願いする基盤ができたと言えると思います。

用地についての今の状況や説明は、「あそこ」とは言わないが、「あそこがあるから」の安心感が透けて見えます。事務局及び委員の発言に“現クリーンセンター敷地内に建て替え用地が確保され～”“建て替えが前提～”とありますが、出典を示してください。

用地については他自治体との共同（「12.1付け新聞報道、目野市・立川市のごみ焼却炉の共同使用協議」の記事、「前回クリーンセンター建設特別市民委員会提言」参照）を含めた可能な限りの真剣な模索が必要です。

2. 9月15日付の佐々木保英委員提出のご意見を拝見しました。大筋賛成しながら意見を付け加えさせていただきます。()内は提案者

(1) 施設の理想的(かつ現実的)な姿をまず、固める。(前回述べたとおりです。)

中でも、次の項目は議論を次に進めるうえで重要です。

「施設基本計画」検討資料の提示・説明

建て替えの必要性について、'現状と予測される事態の具体的で詳しい説明。(大改修の可能性、他市との共同の可能性など。ごみ処理の方式、減量キャンペーンの説明など、計画を実際にすすめる上での行政の実施計画・フローなど。)

3. その他.

- (1) 「(仮称)新武蔵野クリーンセンター施設基本構想」2頁「建て替えがなぜ必要なのか」の理由の中で、
2 設計ごみ質の面から の「ごみ質変動(高質化)への対応では、ごみ発熱量が年々上昇傾向を示しており、設計ごみ質の上限値付近にあると触れているが、「この状態の改善については具体策が示されていません。「生ごみだけだと燃えが悪い」と言う巷の説もあ久それでは・と抵抗感なく市民が混合に出すとすれば、低質化も本気で取り緩めば下がる余地がありそうな気がします。
- (2) 市民には、財政状況を含め、正しい情報を提示し、「先に建て替えありき」ではなく「先に減量・低質化あり」ではないかと思います。
- (3) 現クリーンセンターが建った後のアセスメントについての資料を提示していただきたい。事前事後のアセスメントは市民参加で行うのがいいと思います。
- (4) エコセメント化による最終処分量ゼロもその先はどうなっているのか？ エコセメントの安全性・利用も有限のものであり、この面でも減量への真剣な取り組みと、今後の灰の処分に対する対策、国への働きかけ、研究が必要であると思います。
- (5) 現在のクリーンセンター運営協議会(運協)は、今日まで継続的・日常的参加で、大変な仕事を担ってこられたと思い感謝申し上げます。とともに、今後は新クリーンセンター用地が新しく決まる機会に、構成団体は会員制の団体から、広く地域全員をカバーするような団体によって担われる方が巾広く大勢の人々に関心を持ってもらえるという意味で、よりよいと思い提案します。
- (6) 繰り返しますが、委員会の検討段階が、議論の入り口に入ったというべきところであり、合意に達した部分が多いとはいえないこの時期に、この委員会が広報紙を全戸配布すること、各コミセンで開くことになっている勉強会(勉強会と銘打っても説明会と思う市民もいるであろう事は充分予想されることです)については、テーマ・内容について精査され慎重にされるべきと思います。

以上